

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	スマートシティ推進事業費	所管課	共創推進課
まちづくりテーマ	重点施策名		
5.未来を見据えてみんなで進める	デジタル市役所・スマートシティの推進		

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
国の新しい地方経済・生活環境創生の推進や、多様な主体との共創による新技術の導入が進む一方で、実証から実装への移行やコスト・マネタイズの課題が依然として存在している。人口減少、少子超高齢化、自然災害の激甚化など、様々な社会課題が深刻化する中、限られた人員や財源で持続可能なまちを実現するためにスマートシティの取組を推進する。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
「市政運営の総合指針2028」において、令和10年度までの達成目標(スマート藤沢の実現度)を60%と定めているが、令和7年度の「市民生活に関する意識調査」における実現度は38.5%にとどまっている状況を踏まえ、市民生活の利便性および生活の質の向上を図るため、引き続き施策を推進していく必要がある。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
ICTやAIなど先端技術と多様な主体との共創により都市機能を最適化し、市民の暮らしの質を向上させることを実現する。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
市が抱える諸課題等の解決に向けて、多様な主体との共創により先端技術の活用を進めた。特に、登下校見守りサービスの導入やロボテラスにおける普及啓発等を通じて、市民が先端技術に触れる機会を創出したことで、共創による持続可能な地域づくりの推進に寄与した。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
デジタル技術など、最先端のテクノロジーが活用されたまちであること	2.43	2.52	2.66
把握した市民等のニーズとその対応			
ロボテラスの来場者は、幼児・小学生とその保護者が中心であることから、3月に企画展として、成人～高齢者を対象に電動車いすや食事介助ロボット、AI囲碁ロボット等の生活支援ロボットを中心に体験できる「大人のロボテラス～暮らしを支えるロボット体験～」を実施したことで、これまで接点の少なかった高齢者層への普及啓発につながった。(企画展期間中の60～70代のロボテラス来場者数が通常の約2倍)			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 ■スマート藤沢
将来の生産年齢人口減少を見据えて、ICTやAIなどの先端技術を、多様な主体との共創により活用することで、まちの持続可能性と市民生活の質の向上を図る事業であるため。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	すべての人に健康と福祉を
②	産業と技術革新の基盤をつくろう
③	住み続けられるまちづくりを